

第51回 技術士全国大会（熊本・九州沖縄） 〈報告書〉

熊本

九州沖縄

KUMAMOTO
CASTLE



大会テーマ

かたろう技術のミライ×つなごう技術のチカラ
集え～火の国・水の国～

2025

10/25_土-10/28_火

熊本城ホール（熊本市）

目次

目次	1
行事日程	2
謝辞 大会委員長 日本技術士会九州本部 本部長 佐竹芳郎	3
参加人数一覧	4
大会概要	5
大会宣言	7
大会テーマ	8
大会式典	9
祝辞 文部科学大臣 松本 洋平	11
ご来賓名簿	12
記念講演 九州大学名誉教授・熊本大学名誉教授 松田泰治	13
交流パーティ	15
分科会	17
第一分科会 「防災」：連携のチカラ～経験を活かす・備える～	17
第二分科会 「青年」：ミライを支える技術者 ～“変わる力”を導くプロフェッショナル～	19
第三分科会 「地域」：半導体産業の集積と地域のミライ～高まる技術のチカラ～	21
第四分科会 「人材」：一はばたくチカラー「人口減少社会における人材育成」	23
専門部会／連絡会議等	25
ウェルカムパーティ	28
パートナーズツアー	29
テクニカルツアーA	30
テクニカルツアーB	31
会場点景	33
協賛団体一覧	35
実行委員会名簿	37

行事日程

日時		行事内容	
10/25(土)	10:00~17:00	関連行事(一部の部会・委員会)	
	17:30~19:30	ウェルカムパーティ	
10/26(日)	9:00~12:00	第1分科会	防災一連携のチカラ
	9:00~12:00	第2分科会	青年一ミライのチカラ
	9:00~12:00	第3分科会	地域一高まるチカラ
	9:30~12:00	第4分科会	人材一はばたくチカラ
	13:30~14:20	大会式典: ・開会の辞 ・式辞 ・来賓祝辞 ・大会宣言	
	14:30~15:10	分科会報告	
	15:20~16:40	記念講演 九州大学名誉教授・熊本大学名誉教授 松田 泰治 氏 「2016年熊本地震の教訓に学ぶ～更なる創造的復興に向けて～」	
	16:40~16:55	次期開催地報告 北陸本部	
	17:30~19:30	交流パーティ	
	8:45~17:00	パートナーズツアー	
10/27(月)	8:00~17:30	テクニカルツアーA	
10/27(月)	9:00~16:50	テクニカルツアーB (1日目)	
10/28(火)	8:30~17:00	テクニカルツアーB (2日目)	

謝辞



第 51 回技術士全国（熊本・九州沖縄）大会委員長
公益社団法人 日本技術士会九州本部 本部長
佐竹 芳郎

第 51 回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）を、2025 年 10 月 25 日（土）～28 日（火）の 4 日間にわたり、熊本城ホールを主会場として開催いたしました。九州では 3 回連続で福岡市で開催したので、今回は、他市の熊本市で開催することにしました。ほとんどの行事を熊本城ホールで開催できましたので、便利だったと好評でした。おかげさまで、天候にも恵まれ、会期中の参加者は 627 名を数え、会議は盛大かつ有意義に終えることができました。これもひとえに、全国からご参加いただきました技術士の皆様方、関係機関、ご来賓の皆様のご支援ご協力のおかげと心より御礼を申し上げます。

また、式典では文部科学大臣、九州農政局長、九州産業経済局長、九州地方整備局長、熊本大学学長、熊本県知事の皆様から祝辞を賜りました。深く感謝の意を表します。

大会準備は、2 年前より準備を進め、運営委員会、実行委員会を立ち上げ、特に実行委員会を中心に準備をしまいましたが、開催が迫る中で急激に取り組みが充実してきた感があります。

大会テーマは「かたろう技術のミライ×つなごう技術のチカラ 集え～火の国・水の国～」としました。これは、世界的に変動が大きく、経済的にも環境的にも安全面にも激動な時代に、多様な技術の力を結集して、未来を切り開いていこうという趣旨で開催したものです。

分科会では、「防災」「青年」「地域計画」「人材育成」の 4 テーマで、①令和 2 年 7 月豪雨による球磨川の氾濫等の経験を活かす・備える連携のチカラ、②変わる力を導くプロフェッショナルによるミライのチカラ、③半導体産業の集積と地域の未来に高まる技術のチカラ、④人口減少社会における人材育成によるはばたくチカラなどについて、熱心な議論が行われました。

記念講演は、九州大学名誉教授・熊本大学名誉教授の松田泰治先生による「2016 年熊本地震の教訓に学ぶ～更なる創造的復興に向けて～」のタイトルで、これまでの被災経験を踏まえ被害を最小化できた事例や、今回の地震で学んだ教訓、技術革新により新たに得られた情報の有効活用の考えなどを話していただきました。具体的で有意義でした。

その後の交流パーティでは、灯籠を頭に掲げ灯をともした優雅な「山鹿灯籠踊り」や「バイオリン・クラリネット・ピアノのアンサンブル演奏」の中で、熊本の郷土料理や九州・沖縄のお酒類で大変楽しんでいただきました。技術展示には、15 社・機関からの特色ある展示があり、興味を持って見ていました。オプション行事のウェルカムパーティ、パートナーズツアー、2 つのテクニカルツアーも参加者が多く、好評でした。このほか関連行事として、大会前日には、倫理委員会、防災支援委員会、DEI 委員会や専門部会など 14 の部会・委員会が単独又は合同で開催されましたが、大変活発な議論で盛況でした。

本大会の開催にあたり、参加頂きました会員の皆様、開催に尽力して動いてくれました実行委員会の技術士の皆様、ご協力、ご支援を頂いた関係機関・企業の皆様に感謝の意を表します。

第 51 回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）参加人数一覧表

開催日	行事名	名 称	参加者数	備 考
10月25日（土）	関連行事 （機械部会、船舶・海洋／航空・宇宙部会、電気電子部会、建設部会、上下水道部会、衛生工学部会、農業部会・森林部会・水産部会（合同）、経営工学部会、情報工学部会、応用理学部会、環境部会、倫理委員会、防災支援委員会、DEI委員会の14の部会・委員会が単独または合同で、講演会、見学会、連絡会などを開催）			ほか、 任意の行事開催あり
	懇親会	ウェルカムパーティ	355	オプション
10月26日（日）	分科会	第一分科会	159	外部講師含む
		第二分科会	79	〃
		第三分科会	80	〃
		第四分科会	96	〃
		小計	414	
	記念式典	大会式典	474	うち来賓、随員 31 名
	分科会報告		456	
	記念講演		456	
	次回開催地紹介（北陸本部）		456	
懇親会	交流パーティ	342		
ツアー	パートナーズツアー	29	オプション	
10月27日（月） ～28日（火）	ツアー	テクニカルツアー A（日帰り）	39	オプション
		テクニカルツアー B（1泊2日）	26	オプション

10月26日（日）	展示	技術展示コーナー：3F ホワイエ 展示企業・機関（協賛広告企業8社のほか、社会委員会、DEI委員会、JABEE、阿蘇火山博物館、中国本部、北陸本部、九州本部（防災委員会） 合計15社・機関）
-----------	----	---

大会参加総数（関連行事除く）	627
----------------	-----

*総参加者数は、JTB 受付終了後、事務局への追加申込み、当日参加、来賓、随行者、スタッフ含む

統括本部、地域本部別参加者数

本部名	北海道	東北	北陸	統活	中部	近畿	中国	四国	九州	合計
人数	51	29	40	174	28	29	41	23	212	627

*関東は統括に含む

大会概要



第 51 回技術士全国大会実行委員長

日本技術士会九州本部

清 崎 淳 子

第 51 回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）は、2025 年 10 月 26 日（土）から 28 日（火）にかけて開催された。秋空の天候にも恵まれ、熊本市中心部の会場（熊本城ホール）でのウェルカムパーティ、分科会、式典、記念講演、交流パーティからテクニカルツアーまで、総計 600 名を超える参加者が集い盛会のうちにそれぞれの行事を終えることができた。大会テーマは「かたろう技術のミライ×つなごう技術のチカラ 集え～火の国・水の国～」とし、全国から九州へ集う皆様の交流が有意義なものとなるよう、分科会のテーマもそれぞれに熟考して準備を進めたものである。以下に大会概要を示す。

1. 10 月 25 日（土）には、専門部会や連絡会議等主催の講演会、意見交換会、見学会等が開催された。熊本城ホールの会議室を使用するものに関しては、会場の確保支援を行った。

- ・ 17 時 30 分よりオプション行事のウェルカムパーティを開催した。熊本城ホール 3 階の大会議室を 2 つ連結した会場で、会議室の設備を利用し機材を持ち込んで工夫を凝らしケータリングを利用した。テーブルクロスは赤・青・緑は大会テーマのモチーフを意識して準備されたもので、全国大会の幕開けに相応しい雰囲気が演出されていた。パーティは両日とも立食形式を取り、会議室での開催のため食器類も軽微なものを用意したが、熊本ならではの食材を利用したメニューが並び、また、各県から自慢の酒類も集結し、会場いっぱいの約 350 名参加の盛会となった。議連の新妻秀規氏、進藤金日子参議院議員が技術士として参加されており、ご挨拶をいただいた。アトラクションは Vocal & Guiter で Jazz ナンバーを中心に、皆様の出会いや再会をムードいっぱい歓迎した。

2. 10 月 26 日（日）は、午前中に 4 つの分科会が開催された。第 1 分科会は（防災）でテーマは「連携のチカラ～経験を活かす・備える～」、第 2 分科会は（青年）でテーマは「ミライを支える技術者～“変わる力”を導くプロフェッショナル～」、第 3 分科会は（地域）でテーマは「半導体産業の集積と地域のミライ～高まる技術のチカラ～」、第 4 分科会は（人材育成）でテーマは「-はばたくチカラ-「人口減少社会における人材育成」とした。九州本部で‘今’を考える 4 つのテーマを絞り込み、全国からの参加者とともに学び、意見交換し、次へつなげる発信を行った。どの会場も席が不足するほどの大盛況であり、午後には 4 つの分科会担当それぞれから、活発で有意義な会の様子が報告された。

- ・ 午後から、会場を 2 階のホールへ移し、**記念式典、分科会報告、記念講演**が開催された。式典には文部科学省から 6 名をお迎えし、九州農政局、九州経済産業局、九州地方整備局、熊本大学、熊本県から来賓祝辞をいただいた。さらに、九州森林管理局、九州環境事務所、熊本市、熊本県立大学、崇城大学、東海大学、熊本高専、測量設計業協会連合会、建設コンサルタンツ協会、地質調査業協会等、多くの来賓の方々にご臨席いただき、高らかに大会宣言を発信して無事に記念式典を終えることができた。
- ・ 午前中開催の分科会の報告を挟み、九州大学名誉教授・熊本大学名誉教授の松田泰治先生による記念講演「2016 年熊本地震の教訓に学ぶ～更なる創造的復興に向けて～」を拝聴した。先生は 2016 年の熊本地震時は熊本在住で、地震の被災体験を通じて考察された説得力のあるご講演をいただいた。詳細でかつ貴重な資料も多く、参加者は一心に耳を傾けていた。

- ・プログラムの最後に、**次期開催地紹介**の時間をとり、北陸本部の方々に登壇いただいた。パーティ会場ではスライドの用意ができないため、ホールでのアピールをお願いした。
- ・この日終日、フロアでは**技術展示**を企画し、ポスター展示やパンフレット等の資料配布が用意され、それぞれ興味ある展示物の前で意見交換や交流が活発に行われた。技術士会の委員会等の展示ほか、JABEE からも参加いただき、また協賛会員だけでなく、今回の全国大会に協賛いただいた企業等へも呼びかけ参加いただいた。
- ・**パートナーズツアー**は、県北へのコース、豊前街道（米米惣門ツアー）→昼食→山鹿灯籠民芸館→八千代座と、歴史ある訪問先をご用意した。天気に恵まれ、見学や散策等ゆっくりと過ごしていただき、参加者同士の交流も楽しかったとの感想をいただいた。
- ・17時30分より、**交流パーティ**を開催した。パーティにご参加いただいた来賓の皆様にご挨拶をお願いし、威勢よく幕を開けた。黒崎会長の乾杯のご発声により、和やかな雰囲気の大交流がスタートしたが、前日同様の立食形式であり、会場いっぱい参加者の笑顔が溢れていた。1つ目のアトラクションは、地域の誇る伝統芸能「山鹿灯籠踊り」で、照明の落ちた会場へほのかな灯籠の灯りが揺れながら入場してくる風情は圧巻であった。山鹿灯籠踊り保存会の皆様との記念写真は大人気であった。2つ目はヴァイオリン、クラリネット、ピアノのアンサンブルで、クラシックナンバーだけでなく、熊本ならではの楽曲アレンジをお届けした。「あんたがたどこさ」、「おてもやん」など軽快なMCで由来の紹介が入り、歓談の合間の楽しいひと時を演出することができた。

以上でメインの行事が終了したが、会場移動が熊本城ホール内のみであったため、天候等の心配がいないのが幸いであった。

3. 10月27日（月）朝、日帰りのテクニカルツアーA、1泊2日のテクニカルツアーBがスタートした。熊本城ホールはバスセンター併設の施設のため、ツアーの出発・帰着は桜町バスセンターとした。熊本駅や阿蘇くまもと空港へのバス発着場でもあり、どちらのコースも予定時間通りの移動ができたことと報告が入り、無事に全行事を終えることができたことに心から安堵した。

- ・**10月27日（月）テクニカルツアーA：日帰りコース**

阿蘇神社→新阿蘇大橋→熊本地震震災ミュージアム（駐車場）→昼食→阿蘇火山博物館
→熊本県防災センター

- ・**10月27日（月）～10月28日（火）テクニカルツアーB：1泊2日コース**

半導体講演会（座学）→昼食→球磨川災害復旧工事現場視察→織月城見櫓→人吉宿泊
青井阿蘇神社→通潤橋→昼食→益城町復興まちづくりセンター→熊本県防災センター

開催地熊本の社会状況から交通・宿泊等への懸念が多く、早くからの特設ページ開設と情報共有、案内等の準備を心がけた。大会準備や開催期間の危機管理等、前開催地北海道本部からのご教示を大変参考にさせていただいた。2年以上前から準備を始めた技術士全国大会。長い準備期間には多くのご協力をいただいている。さらに、当日の運営を支えていただき、盛會に導いてくださった皆様へ、心より感謝申し上げたい。ご参加の皆様からもたくさんのお声かけをいただき、大変大きな力となった。開催に関わることで、準備や運営の中身を実感することができ、改めて全国大会開催の意義を深く感じている。なお、九州本部のHPにある全国大会の特設ページは、しばらく開設を続け報告も発信予定であり、今後も時折覗いていただければ幸いである。

第 51 回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）

大 会 宣 言

私たち技術士は、社会の持続的発展と公衆の安全・安心な暮らしを支える使命の担い手として、本日「火の国・水の国」熊本に集いました。熊本は古くから自然の恵みが豊富で、また震災からの復興を力強く進めている地域でもあります。多様な専門性を持つ技術士が、この地で技術のミライをかたり、技術のチカラをつなぐことによって、技術士活動のさらなる発展に寄与することを誓いまして、ここに大会宣言をいたします。

1. 多様化する課題に対して、21 部門の専門技術と多角的な視点を活かし、将来世代のために持続可能な解決策を築きます。
2. 技術者の規範・主導的立場を自覚し、技術士の継続研鑽に励むとともに、地域における技術士制度の普及・啓発に尽力します。
3. 事実や専門知の価値が揺らぐ時代において、よりよい市民社会の実現のため、公衆と真摯に向き合い説明責任を果たします。

2025 年 10 月 26 日

第 51 回技術士全国大会(熊本・九州沖縄) 参加者一同

宣言代表者 公益社団法人日本技術士会 九州本部

橋本 智恵 技術士（建設部門）



大会テーマ

【 かたろう技術のミライ×つなごう技術のチカラ 】

集え～火の国・水の国～

テーマに込めた想いは

「技術のミライを語りたい」、「技術のチカラを繋ぎたい」

壮大な阿蘇の火山と豊かな地下水に恵まれ、
 県北や県南には歴史が刻んだ名所旧跡も数多
 く、さらに、風光明媚な島々が連なる海と西に
 雲仙も見渡せる広々とした平野。その緑豊かな
 森の都の中心「銀杏城」の異名を取る熊本城の
 お膝元に集結した私たち技術に関わる仲間。大
 いに熱い想いを語らい、交流の輪を広げて未来
 へ繋いでいきましょう！

第1分科会（防 災）

連携のチカラ

～経験を活かす・備える～

第2分科会（青 年）

ミライを支える技術者

～“変わる力”を導くプロフェッショナル～

第3分科会（地域計画）

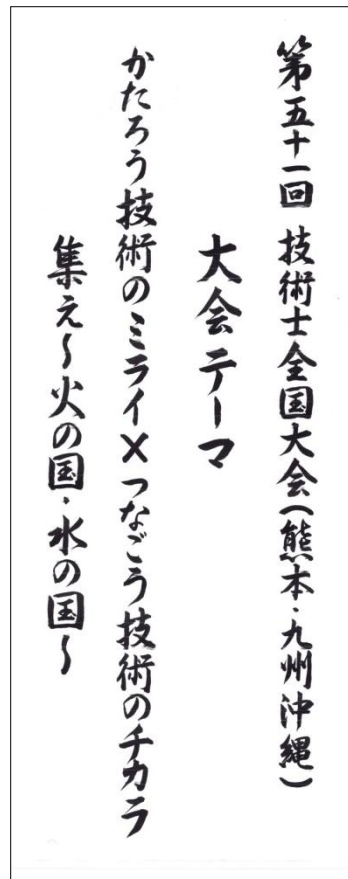
半導体産業の集積と地域のミライ

～高まる技術のチカラ～

第4分科会（人材育成）

～はばたくチカラ～

「人口減少社会における人材育成」



大会式典

本大会式典は、熊本城ホール 2 階シビックホールにおいて、13 時 30 分から 14 時 20 分まで開催された。来賓および随行者を含め 474 名が出席し、定刻どおり開式した。

開会の辞に続き、大会運営委員長（九州本部長）より歓迎の挨拶があり、本大会の開催にあたり協力・支援をいただいた関係各位への謝意が表されるとともに、熊本の地で全国大会を開催できたことへの感謝が述べられた。

続いて、日本技術士会会長より式辞があり、本大会テーマである「かたろう技術のミライ×つなごう技術のチカラ 集え～火の国・水の国～」に触れ、熊本を象徴する火と水が人類の発展を支えてきた存在であることに言及された。自然の恵みと脅威の両面を踏まえ、分野を越えた連携のもと、技術士が地域と社会の発展に貢献していく重要性が示された。

来賓祝辞では、文部科学省、農林水産省九州農政局、経済産業省九州経済産業局、国土交通省九州地方整備局、熊本大学および熊本県より祝意が表された。各祝辞においては、2016 年の熊本地震および令和 2 年 7 月豪雨災害からの復旧・復興の歩みを踏まえつつ、近年進展する半導体関連産業の集積など熊本の新たな発展の動きにも触れられた。また、自然災害の激甚化、人口減少・高齢化、社会基盤の老朽化などの社会課題に対応するうえで、高度な専門性を備えた技術士への期待が示された。本式典には中央省庁をはじめ、地方公共団体、大学等から多数の来賓の臨席を得て、式典としての格式と意義を備えたものとなった。

来賓紹介の後、九州本部所属の若手技術士により大会宣言が読み上げられ、本大会の趣旨と今後の活動への決意が表明された。

式典は終始円滑に進行し、大きな支障なく予定時間内に終了した。本式典は、全国大会の主要行事として、大会の趣旨を共有する節目の機会となるとともに、全国各地から参集した技術士が一堂に会し、専門分野を越えた交流を深める場となった。



歓迎の挨拶 佐竹芳郎
大会運営委員長 九州本部長



式辞 黒崎靖介
日本技術士会 会長



来賓祝辞 松本洋平 文部科学大臣
(代理 福井俊英 文部科学省 大臣官房審議官)



来賓祝辞 緒方和之
農林水産省 九州農政局長



来賓祝辞 星野光明 経済産業省 九州経済産業局長
(代理 楠木真次 九州経済産業局 地域経済部長)



来賓祝辞 垣下禎裕
国土交通省 九州地方整備局長



来賓祝辞 小川久雄
国立大学法人 熊本大学 学長



来賓祝辞 木村敬 熊本県知事
(代理 亀崎直隆 熊本県副知事)



大会宣言 橋本智恵
日本技術士会 九州本部



会場風景

祝 辞



文部科学大臣
松本 洋平

この度、「かたろう技術のミライ・つなごう技術のチカラ」をテーマに、第51回技術士全国大会が熊本で開催されますことを、心からお喜び申し上げます。昭和32年に技術士法が制定されて以降、科学技術に関する高度な知識や応用能力、豊富な実務経験、高い技術者倫理を備える多くの技術士の皆様が、長きにわたって我が国の産業・経済の向上に大きく貢献され、今日の日本社会が築かれてきました。現在約10万人の技術士が登録されており、建設業や製造業をはじめ様々な分野で計画、研究、設計、分析等の業務に幅広く活躍されていることを頼もしく思います。また、公益社団法人日本技術士会におかれましては、技術士制度の中核団体として、技術士試験や登録の実施だけでなく、制度の普及・啓発などを図るとともに日本の産業・科学技術の発展のために多大な貢献をされているところ、これまでの御尽力に深く敬意を表します。

今日、科学技術や人材に係る政策は国家間の競争が一層激化しており、我が国としても、科学技術や人材の力こそが国の存立・発展の礎として認識することが必要です。科学技術・イノベーション政策の推進を担う中核的基盤は「科学技術人材」であり、他の政策・施策等と一体的・体系的・総合的に推進していくことが極めて重要です。こうした観点から、文部科学省科学技術・学術審議会人材委員会での議論を経て、本年7月に「今後の科学技術人材政策の方向性（中間まとめ）」を決定・公表しました。その中では、産学で活躍する技術者、更には技術者の最高峰と呼ばれる技術士についても取り上げたところです。技術士制度における今後の方向性の例としましては、

- ・ 技術士資格の取得を促進するため、インセンティブを高める仕掛けを検討する。特に、学生や技術職員が技術士制度を認知し、技術士資格の取得を目指す機会を増やし、産学で活躍する技術者の育成につなげる。
- ・ 技術士制度の周知・活用に向けた取組を推進する。
- ・ J A B E E 認定との連携も図りながら、I P D（初期専門能力開発）システムの活用から、技術士資格の取得、資格取得後のC P D（継続研さん）までの一貫した整合性あるシステムの構築・改善に向けて検討する。

を挙げ、技術士制度の充実・発展を促進してまいります。日本技術士会におかれましても、技術士の高い専門性と技術者倫理を生かした活動に精力的に取り組まれております。例えば九州本部では、

- ・ 熊本地震復興支援会議を設置し、専門分野を生かして、幅広く長期的に復興を支援
- ・ 平成29年7月九州北部豪雨災害への現地調査の実施
- ・ 地域産業支援アドバイザーによる技術相談

など、様々な取組を推進されていると伺っております。

また、九州は半導体産業や宇宙産業など先端技術が集まる地域として注目されており、技術のミライが語られ、技術のチカラをつなぐ地域として、更に技術士の皆様が御活躍され、技術と人材も発展していくことに期待したいと思います。

結びになりますが、本大会の開催準備に尽力された公益社団法人日本技術士会、とりわけ九州本部の皆様にご感謝を申し上げますとともに、技術士の皆様方のますますの御活躍と御健勝を祈念いたしまして、大会開催に際しての御挨拶とさせていただきます。

ご来賓名簿

文部科学省	大臣 松本 洋平 様 (代理 大臣官房審議官 福井 俊英)
農林水産省九州農政局	局長 緒方 和之 様
林野庁九州森林管理局	局長 眞城 英一 様
経済産業省九州経済産業局	局長 星野 光明 様 (代理 地域経済部長 楠木 真治)
国土交通省九州地方整備局	局長 垣下 禎裕 様
環境省九州地方環境事務所	所長 番匠 克二 様
熊本県	知事 木村 敬 様 (代理 副知事 亀崎 直隆)
熊本市	市長 大西 一史 様
国立大学法人 熊本大学	学長 小川 久雄 様
公立大学法人 熊本県立大学	学長 堤 裕昭 様
学校法人 崇城大学	学長 小野 長門 様 (代理 副学長 武谷 浩之)
東海大学九州キャンパス	九州キャンパス長 木之内 均 様 (代理 九州キャンパス長付 荒木 朋洋)
国立熊本高等専門学校	校長 高松 洋 様
一般社団法人 全国測量設計業協会連合会	会長 藤本 祐二 様 (代理 熊本県測量設計コンサルタント協会 会長 内田 貴士)
一般社団法人 建設コンサルタント協会九州支部	支部長 穰山 泰治 様 (代理 副支部長 栄徳 洋平)
一般社団法人 熊本県地質調査業協会	理事長 岩隈 一幸 様
記念講演	九州大学名誉教授・熊本大学名誉教授 松田 泰治 様

記念講演報告



2016年熊本地震の教訓に学ぶ

～更なる創造的復興に向けて～

九州大学名誉教授・熊本大学名誉教授
松田 泰治（まつだ たいじ）氏

■日時 2025年10月26日(日) 15:20～16:40

■会場 熊本城ホール シビックホール

■講演内容

1. はじめに

今回の記念講演は、開催地が創造的復興に取り組んでいる熊本ということもあり、ご自身も熊本大学在職中に被災した体験を持ち、その後も多くの地域防災計画検討等の委員会で示唆に富む提言を行っている氏にお願いすることとしました。熊本地震では人的被害とともに、家屋、道路・鉄道のインフラ施設や電力・水道等のライフラインも甚大な被害が発生しましたが、これまでの被災経験を踏まえた対策で、被害を最小化できた事例もありました。

氏からはその具体的な紹介とともに、被災体験の教訓から得られた知見と併せて、IT技術をはじめ様々な技術革新の効果的な活用や関係機関との緊密な連携と情報共有が今後の防災・減災対策にとっても極めて重要であることを、全国の技術士が集うこの機会に広く発信していただくことといたしました。

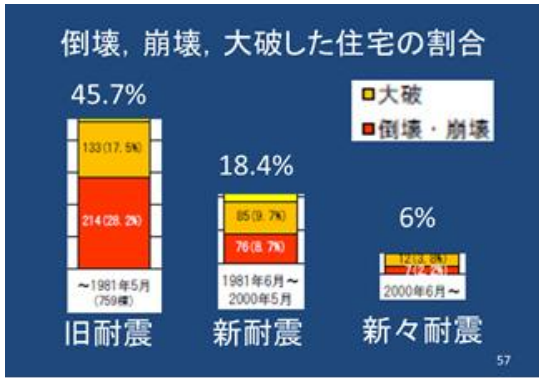
2. 講演概要

講演は、大会式典・分科会報告に引き続き、400人を超える聴衆の参加で盛況の中に始まりました。氏は大きく次の4項目で講演を進められました。

- ・2016年熊本地震の振り返り
- ・過去の教訓は生かされたのか
- ・新たに得られた課題
- ・更なる創造的復興に向けて

この次第に沿って前半を熊本地震の特徴や建物・

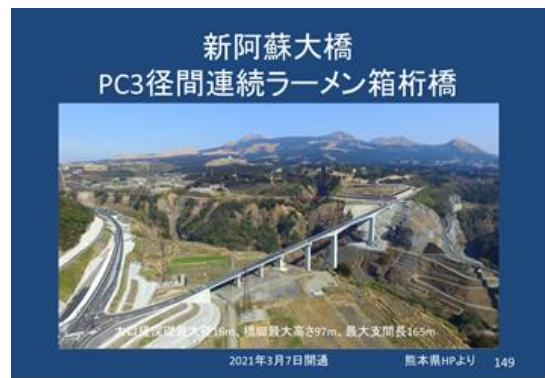




高速道路等の被災状況を多くの資料や写真で示しながら、その被害の低減にこれまでの被災経験をどのように生かしていたかを、主に阪神淡路大震災と比較しながら具体的な事例で丁寧に解説されました。

これらの事例の説明を受けて、後半、氏は気候変動の激甚化に伴う災害リスクの増大とともに、全国で多くの社会基盤施設の老朽化が急速に進行している我が国の現状も踏まえ、ハードの整備と併せて、

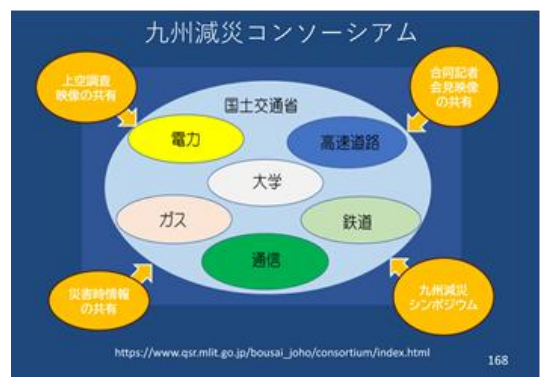
熊本地震での体験から新たに得られた課題として、道路啓開情報の取り扱いと真の連携実現に必要な取り組みを提言されました。このことが更なる創造的復興を目指す上で、熊本ではもちろん、我が国において今後発生が予想される巨大地震発生時でも広域連携を進める上で、関係機関間の協定締結や各事業者間においての情報共有の重要性を強調されました。その事例として、氏が座長を務める九州減災コンソーシアムについて、基本となる活動方針や主な活動内容の紹介で今回の講演を結ばれました。



過去の教訓は生かされたのか

その結果、

- ・緊急消防援助隊、県内消防本部、警察、自衛隊、海上保安庁の各機関により、総数で1,713名が救助された。
- ・阪神淡路大震災では近隣住民による救助が主体であった。



3. おわりに

今回の講演は、氏の専門とする地盤工学、都市防災の豊富な知見を基に、熊本地震での被災など、自らが体験してきた事例を数多く紹介・解説するという形で展開されました。そのため非常に分かりやすく説得力のある内容でありました。記念講演後の交流パーティの場だけでなく、大会を終えた後日にも聴講者の方から講演資料への問い合わせがあったことからわかります。このことを氏にも伝え、お互いに防災・減災への更なる高まりの機会となったと喜んだ次第であります。改めまして貴重なご講演に心から感謝を申し上げます。

以上
(文責 九州本部事務局次長 藤島 義久)

交流パーティ

プログラム

1. 開会のことば（全国大会運営委員長・日本技術士会 九州本部本部長/佐竹芳郎）
2. 主催者挨拶（公益社団法人日本技術士会 会長/黒崎靖介）
3. 鏡開き&乾杯（来賓の皆様、黒崎会長）
4. アトラクション1（山鹿灯籠踊り保存会/山鹿灯籠踊り）
5. アトラクション2（アンサンブル演奏/黒葛原康子・春日香南・南部歌歩子）
6. 次期開催地紹介（北陸本部の皆様）
7. 閉会のことば（全国大会実行委員長・九州本部副本部長/清崎淳子）



開会のことば 佐竹芳郎
(全国大会運営委員長・九州本部長)



乾杯 黒崎 靖介
(日本技術士会 会長)



鏡開き
(来賓の皆様)



鏡開き
(来賓の皆様)



アトラクション 山鹿灯籠踊り
(山鹿灯籠踊り保存会)



アトラクション 山鹿灯籠踊り
(山鹿灯籠踊り保存会)



アトラクション アンサンブル演奏
(黒葛原康子・春日香南・南部歌歩子)



次期開催地紹介
(北陸本部の皆様)



次期開催地紹介
(北陸本部の皆様)



司会 小出 史 氏
(式典～交流パーティ担当)



閉会のことば 清崎 淳子
(全国大会実行委員長・九州本部副本部長)



パーティ会場のセッティング
(大会テーマのクロスカラー)



パーティ会場の様子
(立食式で賑やかに盛り上がった)



パーティ会場入り口
(熊本城ホール3F 大会議室)

第一分科会（防災）

1. テーマ：一連携のチカラ「経験を活かす・備える」

2. 分科会趣旨：

近年、津波災害、豪雨災害、地震災害と大きな自然災害が頻発し毎年のように多くの犠牲者が発生しています。自然災害に対する備えについては、様々な組織から報告されているが、それに対する対応は低く、避難指示が出されても避難率は低く、多くの人は災害が起こるまで災害を自分のこととしてとらえていないのが現状です。

国土交通省では「水害リスクを自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす自分事化検討会」による検討を踏まえ、全国各地に残る災害伝承に係る情報（コンテンツ、活動）のうち、心を揺さぶり行動に誘う良質な情報を発掘・育成するとともに、その情報を伝える仕組みを全国で展開することで、災害を自分事化し人々の防災行動を変えていくことを目指されています。

我々技術士としても、21部門にとどまらず、様々な士業と連携し、災害に立ち向かう取り組みを続けてきています。今回は、「経験を活かし、備える」ことを目的に、令和2年7月豪雨で被災した球磨川地域でのその後の対応について、流域での取組と集落での取組を紹介いただくとともに、日本の自然特性である火山との共生の取組について、講演いただきました。

3. 分科会開催概要

- ・日時：2025年10月26日（日）9：00～12：00
- ・会場：熊本城ホール 3F 会議室（A1）
- ・参加者：159名（講師3名を含む）

4. 講演会概要

①演題「令和2年7月豪雨の復旧状況と球磨川の流域治水について」

講師：飯島 直己氏（国土交通省 九州地方整備局 八代河川国道事務所 所長）

発表内容：球磨川の復旧に向けた緊急流域治水プロジェクトを中心に、最新の技術を用いた施工や、流域タイムラインによる防災訓練の実施などを紹介いただきました。

質疑応答：流域治水での地元自治体と連携している具体例や要支援者への対応について質問があり、ハード対策やソフト対策の内容を説明いただきました。

②演題「IoT技術による小集落河川観測システムー地域をカバーする『くまかめ』『クマネット』『くまセンサー』」

講師：古田 尚也氏（大正大学 学習支援センター教授）

発表内容：集落単位での情報集や買収発信を目的とした、安価なカメラやセンサー類の紹介とIoT技術を発展させた地域共創型DXについて紹介いただきました。

質疑応答：森林保水対策へのアイデアや発表技術に関する国交省の関心などについて質問があり、流域全体でのモニタリングの実施や官学民での連携の必要性を説明いただきました。

③演題「桜島における火山活動情報の発信に関する実践」

講師：福島 大輔氏（NPO 桜島ミュージアム 理事長）

発表内容：火山と共生する観光業の情報発信のあり方について、「観光客目線での情報発信」や「怖がり過ぎない」「安心過ぎない」情報発信など紹介いただきました。

質疑応答：ブラタモリの専門性や潮汐と山体膨張への影響について、やり取りがありました。



講演者 飯島 直己
(国土交通省九州地方整備局
八代河川国道事務所長)



飯島所長発表時の会場



講演者 古田 尚也
(大正大学 学習支援センター教授)



古田教授発表時の会場



講演者 福島 大輔
(NPO 法人桜島ミュージアム 理事長)



福島理事長発表時の会場



分科会開始直前の A1 会議室



講演者への質疑

第二分科会（青年）

1. テーマ：

ミライを支える技術者 ～”変わる力”を導くプロフェッショナル～

2. 分科会趣旨：

私たちを取り巻く社会は、VUCA——すなわち「変動性・不確実性・複雑性・曖昧性」に象徴されます。気候変動や自然災害、地政学リスク、急速な技術革新などにより、将来を見通すことが難しい状況が常態化し、従来型の発想だけでは社会課題の解決が困難になっています。

特に、データ・デジタル技術を活用した産業構造の変化のなかで、常に変化する社会や顧客の課題を捉えてデジタルトランスフォーメーション（DX）を実現することが重要です。しかし、多くの日本企業ではDXの取り組みに遅れが見られ、その大きな要因のひとつとして、DXの素養や専門性を持った人材の不足が指摘されています。これを受けて、経済産業省・IPAが令和4年12月に取りまとめた「デジタルスキル標準」ver. 1.0では、DX推進人材の役割や習得すべき知識・スキルに加え、マインドやスタンスといったコンピテンシーについても踏み込んで示されました。さらに、令和6年7月の改訂では急速に普及する生成AIの影響を踏まえ、生成AIを含む新技術への向き合い方や行動方針が補記され、VUCAの時代における変革を牽引できる人材像がより明確に示されています。

この「変わる力」を専門的かつ責任ある形で導くことは、部門を問わず技術士に強く求められる役割ではないでしょうか。高度な専門知識・応用能力、そして倫理観を備え、公衆と社会の持続可能性を優先する技術者だからこそ、DXをはじめとする社会変革の旗手となることが期待されています。環境・防災・地域づくりなど幅広い領域において、技術士の変革力こそがミライを支える原動力であることを、本分科会の議論を通して確認しました。

3. プログラム（敬称略）

① 開会挨拶・概要説明（9:00～9:15）

② 意見発表（9:15～10:50）

小坂 佑士 氏（高良台リハビリテーション病院 サポート部 副部長）

藤井 将志 氏（谷田病院 事務部長）

税所 知久 氏（弁護士法人 ALG&Associates 福岡法律事務所

プロフェッショナルパートナー 弁護士）

竹内 将人 氏（統括本部 青年技術士交流委員会 元委員長 技術士（化学部門））

③ パネルディスカッション（11:00～12:00）

テーマ： 技術者が持つべき「変革力」と、その必須要件

コーディネーター： 山田 暁通 氏

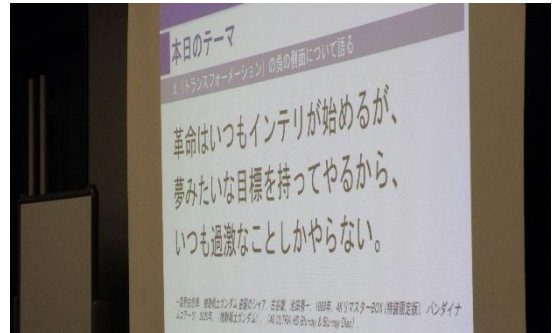
パネリスト： 小坂 佑士 氏、藤井 将志 氏、税所 知久 氏、竹内 将人 氏

4. 本分科会での意見集約内容

パネルディスカッションでは、技術者が持つべき「変革力」について、「①専門分野の基礎知識」「②変革のマインド」「③変革プロセス推進」の順に、意見発表者と会場で意見交換していただきました。①では専門外の分野の基礎的な知識・勉強の必要性が必要であることが確認されるとともに、信頼できる一次ソースとなる他の専門家とのゆるやかな繋がり的重要性が指摘されました。また、②③で変革人材のベースは「自己成長マインド」であることや、好奇心を糧に新たな分野に越境的に挑戦することを楽しむ技術者像が確認できました。



第2分科会の様子



意見発表（トランスフォーメーションの負の側面について重要な示唆）



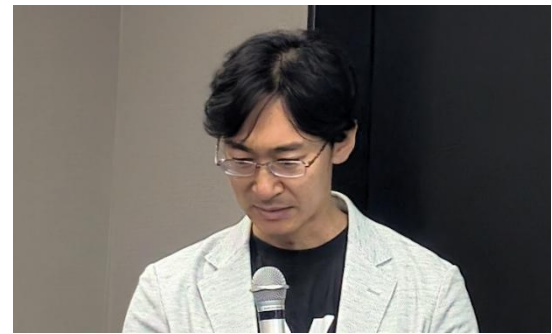
パネリスト 小坂 佑士 氏



パネリスト 藤井 将志 氏



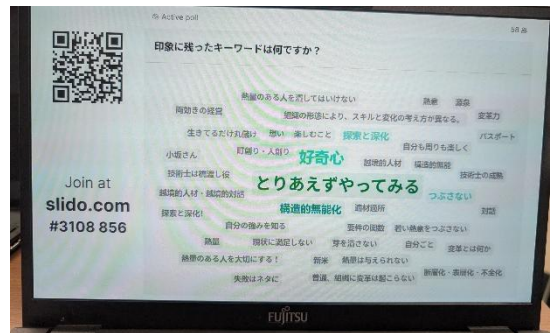
パネリスト 税所 知久 氏



パネリスト 竹内 将人 氏



会場参加者との闊達な議論の様子



意見集約時に収集した会場意見（多数のコメントほど中央で拡大表示）

第三分科会（地域）

本分科会では、半導体産業の集積から社会経済活動が活性化され、資本と人口の流入が促進される中で、これからのまちづくりに技術はどんな使命を果たすのかを論点としました。今回、各界で特色ある取組に関わってこられた講師にその取組を紹介いただき、この論点整理のキーワードの提案から、その課題解決に向けて技術と技術者に求められる視点を本分科会の提言としました。

1. 実施概要

- ①分科会テーマ 「半導体産業の集積と地域のミライ～高まる技術のチカラ」
- ②日時 2025年10月26日(日)9:00～12:00
- ③会場 熊本城ホール 3F 会議室(D1、D2)
- ④参加者 80名(講師6名含む)
- ⑤実施形式 基調講演+パネルディスカッション(司会・進行;小委員長 藤島義久)

2. 基調講演(9:10～10:10)

- ①講演タイトル 「産業の集積と地域の未来」
- ②講演者 九州大学大学院工学研究科教授 馬奈木俊介氏
- ③講演概要(骨子)

「国連で主導している「新国富論」の概念は、従来のGDP中心の経済指標では捉えきれなかった多角的で持続可能な社会の豊かさを追求するもの。社会の価値観が多様化し、幸福度や環境の質といった無形の価値が重視される時代では経済合理性だけでなく、ウェルビーイングの向上や自然環境への配慮などが重要となる。半導体産業の集積が進む熊本でもインフラは住民のウェルビーイングに資するものでなくてはならない。持続可能な開発を目標とする次の時代は、これまで評価されていない価値を科学的にも正しく評価し、人々が幸せに生きるための包括的な指標が必要となる。その指標となる社会や環境の価値は数値化・可視化できる。そして、この価値を創出していくのは技術であり、地域の取組のもと、経済的視点からも分析し、技術の力を発揮し、現場で成果を出していくことが大切である。」



馬奈木氏

3. パネルディスカッション(10:15～12:00 コーディネーター;九州大学 馬奈木俊介氏)

- ①財団法人九州経済調査協会常務理事 岡野秀之氏

題目「半導体産業の集積と地域の未来」

○シンクタンクの立場から半導体産業の特徴を基に今回のJASMの誘致により地域企業が成長する機会となること、さらには、半導体エコシステム構築を目指す熊本県の大学等との連携経緯や経済産業省の九州エリアへの期待などを豊富な資料で紹介されました。



岡野氏

- ②三井不動産株式会社事業開発部長 須永 尚氏

題目「街づくりにおける経済的価値と社会的価値の創出に向けた挑戦」

○柏の葉街づくりプロジェクトでは、そのテーマを「環境共生、健康長寿、新産業創出」とし、その実現に向けた仕掛けを多くの事例で解説されました。また菊陽町の区間整理事業では、まちづくり包括連携協定の中で、スポーツによる住民幸福度の指標化の検討も紹介されました。



須永氏

③由布市まちづくり観光局代表理事 桑野和泉氏

題目「観光産業を活かした地域の活性化とインフラの役割」

○湯布院が全国有数の観光地に発展してきた経緯とインフラの効果、昨今のインバウンド需要への工夫や対策、さらには氏が経営する旅館のコンセプトを紹介されました。その一つに保養があり、集落のような建築という発想はとても印象的でした。



桑野氏

④城山観光株式会社企画広報部長 安川あかね氏

題目「SDGs からおもてなし」

○氏の勤務するホテルが大学等との連携による食品ロス対策や表彰制度の導入による人材流出対策など、環境・社会・人権を基準とした取組を紹介されました。これらの取組やおもてなしを数値化によって評価する手法を検討していきたいと述べられました。



安川氏

⑤菊陽町副町長 小牧裕明氏

題目「菊陽町が目指す日本一のまちづくり」

○TSMC の町内立地で交通渋滞や工業用水の課題が出ているが、その対策もなされており、駅を中心とした市街地整備を産学官連携で進めることで県内人材の流出も期待できると述べられました。半導体産業の誘致は町民の生活の質を向上させるものであり、成長し続けるまちづくりを目指すとされました。



小牧氏



パネルディスカッションの様子（敬称略）

【左から、藤島、馬奈木、岡野、桑野、須永（スクリーン：web）、安川、小牧】

最後に、馬奈木教授から各パネラーに補足を求められ、

- ・この地に集積する半導体産業を使いこなす人材の育成
 - ・新しい生産システム構築のチャンスにある今、産学官の垣根を超えたモデルづくりの必要性
 - ・この地域の変貌は九州の誇り、更なる取り組みと発展を期待
 - ・デジタル化が進む中でもおもてなしの人材は重要
 - ・価値の可視化は技術の効果の発信のツール、さらなる活用を
- などが出されました。（講師の方の意見は午後の分科会報告にも反映しました）

《キーワード》可視化、価値の融合、ウェルビーイング、リーダーシップ(人材育成)

第四分科会（人材）

第4分科会では、『はばたくチカラ』として『人口減少社会における人材育成』を主テーマに取りあげ、以下のような基調講演、意見発表、パネルディスカッションの構成で意見交換を図った。

1. 実施概要

日時：2025年10月26日（日）9：30～12：00

会場：熊本城ホール 3F 会議室（E1, E2）

参加者：96名（講師5名を含む）

2. 基調講演

『人材育成を考え行動し、自分も若者もはばたくチカラをつける』

深堀 聡子 氏（九州大学 未来人材育成機構 教授、Ph.D）

3. 意見発表

小林 政徳 氏（日本技術士会 理事、機械・電気電子・総監）

清野 聡子 氏（九州大学 大学院 工学研究院 環境社会部門 准教授、博士（工学））

仲田 裕一郎 氏（日本技術士会 九州本部 前熊本県土木技術審議監、建設・環境・総監）

牟田 英昭 氏（日本技術士会 九州本部 北九州地区支部支援委員会委員長、建設・総監）

4. パネルディスカッション

『技術者（士）は、何ができ、何が課題で、何を求められているか』

<パネリスト> 小林 政徳 氏、清野 聡子 氏、仲田 裕一郎 氏

<コメンテーター> 深堀 聡子 氏

<コーディネーター> 牟田 英昭 氏

5. まとめ

第4分科会では、登壇者による意見発表に加え、質問用紙を介して参加者との活発な意見交換を行い、その議論の成果を4つのカテゴリーに整理した。まず『1. マインド』については、技術者が若い世代や地域社会との協働を通じてマネジメント力を高めるとともに、リスクリングの重要性を自ら主体的に捉える姿勢が求められることが確認された。次に『2. 育成手法』では、エンジニアリング・コンピテンシーを適切に評価する仕組みを構築し、それを人材育成のプロセスへ反映させていくことが今後の大きな課題であることを再認識した。さらに『3. 関係機関の役割』に関しては、多様な背景や価値観をもつ人々が交わり、協働して活動できる場を創出することの重要性が共有された。最後に『4. 人材育成を“わくわく”しながら考える姿勢』では、技術者一人ひとりがWell-beingの精神を体現し、自己の幸福と成長を追求することの意義が強調された。

このように、第4分科会では、登壇者の発表と参加者との意見交換により、冒頭で掲げたテーマに沿った今後の方向性を明確に導き出すことができた点が、大きな成果として得られた。

当日は、定員60名に対してフロアには91名もの参加者が来場され、盛況な分科会となった。



基調講演
(深堀 聡子 氏)



意見発表
(小林 政徳 氏)



意見発表
(清野 聡子 氏)



意見発表
(仲田 裕一郎 氏)



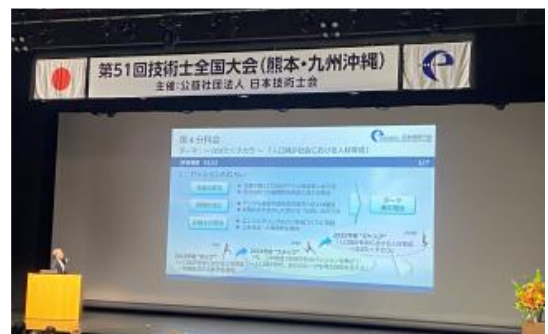
意見発表
(牟田 英昭 氏)



パネルディスカッション



パネルディスカッション



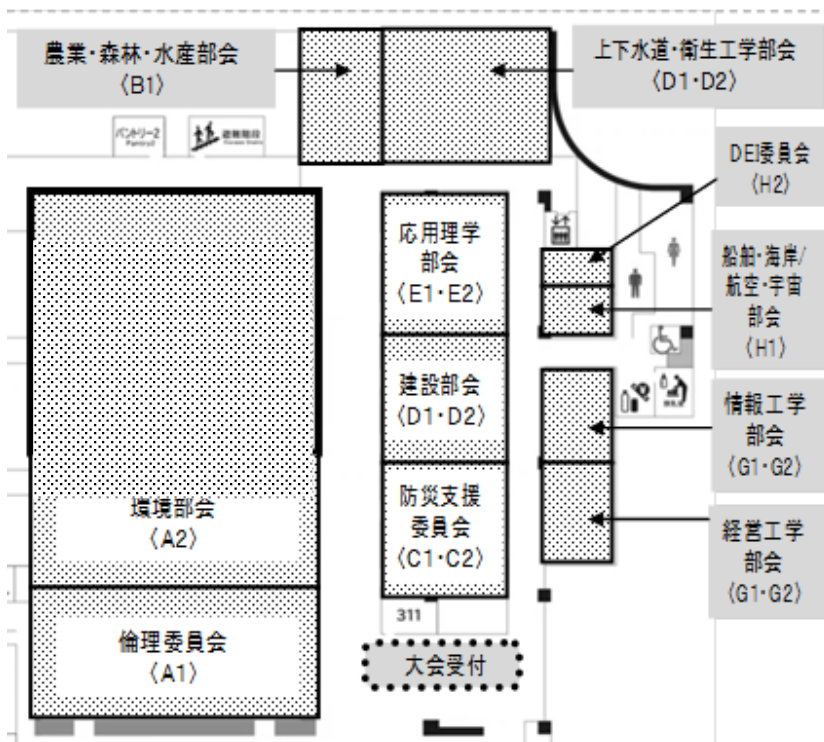
分科会報告

専門部会／連絡会議等

2025年10月25日(土)に14の部会・委員会により全国大会に併設して実施される専門部会・連絡会議等が熊本城ホールの3階会議室をメイン会場として開催されました。

今回、九州本部は会場・設備を用意し、周知等の支援を行いました。

開催形態も、会議(ハイブリッド、ワークショップ等)、講演会、見学会、パネル展示等と多様で充実した内容となりました。



熊本城ホール3階 会場案内図

主催・関係組織	機械部会+九州本部ものづくり部会	形態	見学会(ライブ配信)+講演会(ハイブリッド)
行事名	2025年技術士全国大会(熊本)併設機械部会		
日時	2025年10月25日(土) 見学会: 10:00~11:50 講演会及びグループディスカッション: 12:45~16:30		
会場	熊本大学黒髪南地区総合研究棟2階204		
開催概要	午前: グローバルものづくり教育センター大淵慶史准教授・熊本大学工学部研究資料館 五高記念館の見学(ライブ配信) 午後: 産学連携による講演会(2講)及びグループディスカッション(ハイブリッド) 講演者: 熊本大学 浪平 隆男准教授、熊本高専 湯治準一郎教授		

主催・関係組織	船舶・海洋/航空・宇宙部会	形態	講演会+連絡会(ハイブリッド)
行事名	船舶・海洋/航空・宇宙部会 in 熊本全国大会		
日時	2025年10月25日(土) 13:30~16:30		
会場	熊本城ホール 3階 H1		
開催概要	講演: 「日欧国際共同研究 VISION と国産旅客機関連研究を通して...」 佐藤昌之教授(熊本大学 先端科学研究部 産業基盤部門 ロボット・制御・計測分野) 連絡会: 現地参加者ならびに各地域をオンラインで結んでの意見交換会		

主催・関係組織	電気電子部会	形態	見学会
行事名	九州本部ものづくり部会/電気電子部会合同見学会		
日時	2025年10月25日(土)		
見学先	サントリー九州熊本工場		
開催概要	サントリー九州熊本工場は、2003年に名水の地として名高嘉島町に開設され、ビール類に加え、天然水や清涼飲料水を生産する業界初の本格的ハイブリッド工場です。 見学会では、ものづくりの姿勢やビールづくりの製造工程を通して、つくり手の情熱や美味しさの秘密などを学ぶことができます。		

専門部会／連絡会議等

主催・関係組織	建設部会	形態	会議(WEB配信あり)
行事名	建設部会×地域本部意見交換会		
日時	2025年10月25日(土) 13:30～16:00【受付:13時00分～】		
会場	熊本城ホール 3階 D1・D2(連結)		
開催概要	建設部会と地域本部(建設部門担当)における活動内容と課題の共有、および建設部会への要望について意見交換する。		

主催・関係組織	上下水道部会・衛生工学部会	形態	講演会(WEB配信あり)
行事名	上下水道部会・衛生工学部会 第51回技術士全国大会 特別講演会		
日時	2025年10月25日(土) 14:00～16:00		
会場	熊本城ホール 3階 B2・B3(連結)		
開催概要	講演1 講師:熊本市上下水道局計画整備部長 藤本 仁氏 演題:熊本市における下水道資源の有効活用について～これまでの取組と今後の展開～ 講演2 講師:熊本市上下水道局維持管理部長兼首席審議員兼水道維持課長 島村 幸一氏 演題:くまもと地下水の成り立ちと水道のこれから		

主催・関係組織	衛生工学部会	形態	見学会
行事名	全国大会併設 衛生工学部会施設見学会		
日時	2025年10月24日(金) 13:00～17:00		
見学先	① PSオランジュリ(熊本) + ② サクラマチクマモト地下熱源施設		
開催概要	【見学概要】①大正8年開設の登録有形文化財に対する、除湿型放射冷暖房と建築空間デザイン等による快適空間へのリノベーション技術見学 ②地下水都市熊本における大規模かつ持続可能な地下水利用熱源システムの解説・見学		

主催・関係組織	農業部会・森林部会・水産部会	形態	会議(会場限定)
行事名	九州本部みどり部会、農業部会、森林部会、水産部会合同意見交換会		
日時	2025年10月25日(土) 14:00～17:00		
会場	熊本城ホール 3階 B1		
開催概要	①九州本部みどり部会、統括本部農業部会・森林部会・水産部会から活動状況についての報告 ②地域本部と統括本部各部会との連携についての意見交換 等		

主催・関係組織	経営工学部会	形態	会議(ハイブリッド)
行事名	第51回技術士全国大会 経営工学合同専門部会		
日時	2025年10月25日(土) 13:00～16:55		
会場	熊本城ホール 3階 F1・F2(連結)		
開催概要	全国大会の大会テーマ「かたろう技術のミライ×つなごう技術のチカラ」に沿った内容で各地域本部からの発表と、パネルディスカッションを予定。(第1部)各本部の概要活動報告(第2部)本テーマに関わる各地方本部活動紹介又は、各地域本部所属技術士の活動紹介		

主催・関係組織	環境部会	形態	講演会(WEB配信あり)
行事名	第51回技術士全国大会 環境部会 講演会		
日時	2025年10月25日(土) 14:00～16:00		
会場	熊本城ホール 3階 A2		
開催概要	講演1 講師:熊本県立大学環境共生学部准教授 小森田 智大氏 演題:熊本県の砂質干潟における生態系構造の特徴 講演2 講師:国立水俣病総合研究センター 元環境保健室長 蜂谷 紀之氏 演題:水俣病問題と八代海の環境汚染 ― 歴史的教訓		

専門部会／連絡会議等

主催・関係組織	応用理学部会	形態	会議(ハイブリッド)
行事名	2025 応用理学部会 in 九州		
日時	2025年10月25日(土) 12:30~17:00		
会場	熊本城ホール 3階 E1・E2 (連結)		
開催概要	九州に特色のある講演(3講) ①阿蘇火山博物館の池辺館長 ②有機EL発光材料：九州大学の安達先生 ③地質と地震のテーマ：熊本大学の鳥井先生		

主催・関係組織	情報工学部会	形態	会議(ハイブリッド)
行事名	第51回技術士全国大会 情報工学部会 講演会		
日時	2025年10月25日(土) 14:30~16:30		
会場	熊本城ホール 3階 G1・G2 (連結)		
開催概要	<p>【演題】地盤防災に関する研究の取り組みと異分野連携</p> <p>【講師】杉本 知史 氏(長崎大学大学院総合生産科学域(工学系)システム科学部門准教授)</p> <p>【概要】進行性地すべりと被災城郭石垣に焦点を当て、遠隔モニタリングと現地調査、数値シミュレーションなどの手法による力学的メカニズムの解明の試みについてご紹介。</p> <p>また、異分野との連携の取り組みやその枠組について意見交換を予定。</p>		

主催・関係組織	倫理委員会	形態	会議(WEB配信あり)
行事名	技術者倫理情報連絡会		
日時	2025年10月25日(土) 13:00~17:00		
会場	熊本城ホール 3階 A1		
開催概要	第1部：統括本部倫理委員会及び九州本部倫理委員会からの報告・話題提供 第2部：技術者倫理情報交換会		

主催・関係組織	統括本部防災支援委員会防災支援対外活動ワーキンググループ 九州本部防災委員会	形態	会議(ワークショップ)
行事名	ワークショップBOUSAI		
日時	2025年10月25日(土) 13:00~17:00		
会場	熊本城ホール 3階 C1・C2 (連結)		
開催概要	<p>テーマ「正常性バイアス(まだ自分は大丈夫・・・)をぶっ壊せ!</p> <p>～頻発する豪雨災害から大切な命を守るためには?～</p> <p>(1)問題提起と事例紹介 (2)グループ討議 (3)各班の発表 (4)各班発表に基づく意見交換</p>		

主催・関係組織	DEI委員会(旧・男女共同参画推進委員会)	形態	パネル展示
行事名	DEIを知ろう!参加しよう!!(パネル展示)		
日時	2025年10月25日(土) 12:00~17:30		
会場	熊本城ホール 3階 H2		
開催概要	「日本技術士会DEI推進宣言」を周知し、DEI推進に向けた情報共有や交流の機会としてパネル展示を行う。年齢や性別、部門を超えて活動している委員会の活動紹介の他、DEIに関する動画も流す予定。来場者にはDEI宣言を書くことで参加いただく(紙とペンは用意)。		

ウェルカムパーティ

プログラム

1. 開会のことば（全国大会実行委員長・日本技術士会 九州本部副本部長/清崎淳子）
2. 歓迎の挨拶（全国大会運営委員長・日本技術士会 九州本部本部長/佐竹芳郎）
3. 乾杯（公益社団法人日本技術士会 会長/黒崎靖介）
4. ご挨拶（議連事務局長/新妻秀規氏、参議院議員/進藤金日子氏）
5. アトラクション（Vocal & Guitar 演奏/山内裕佳&奥田英理）
6. 閉会のことば（現地運営小委員長・九州本部熊本県支部長/高山祐二郎）
司会（実行委員・九州本部熊本県支部幹事/石田奈緒）



歓迎の挨拶 佐竹 芳郎
(全国大会運営委員長・九州本部長)



乾杯 黒崎 靖介
(日本技術士会 会長)



ご挨拶 新妻 秀規 氏
(議連事務局長/技術士)



ご挨拶 進藤 金日子 氏
(参議院議員/技術士)



アトラクション Vocal & Guitar 演奏
(山内裕佳&奥田英理)



閉会のことば 高山 祐二郎
(九州本部・熊本県支部長)

オプション行事

パートナーズツアー	
10/26(日)	集合時間 8:45 熊本桜町 BT $\xlongequal{\text{貸切バス}}$ 〇豊前街道(米米惣門ツアー) $\cdots\cdots\cdots$ 昼食【彩座】 $\cdots\cdots\cdots$ 9:00 10:00 11:20 11:30 12:30 /// $\cdots\cdots\cdots$ 〇山鹿灯籠民芸館 $\cdots\cdots\cdots$ 〇八千代座 $\xlongequal{\text{貸切バス}}$ 熊本桜町 BT 12:40 13:10 13:20 15:40 17:00 <div style="text-align: right;">朝：－ 昼：〇 夕：－</div>

パートナーズツアーの参加者は、主に技術者の奥様です。ツアー中、折に触れて参加者の皆様とお話する機会がありました。こだわりの強い技術職と共同生活を送れる方々ですから、どの方とのお話も、非常に学びの多いものでした。皆さんに共通されていたのが、表に出す、出さないはあれど、技術士であるご主人を心から尊敬なさっている点でした。こんな味方が近くに来てくれたら、いくらでも頑張れるものも頷けます。多くの方がリピーターのパートナーズツアー。同窓会のように雰囲気が良く、個人的にも実家に戻って可愛がってもらっているような時間を過ごさせていただきました。また、技術士の皆様とその家族を案内し、知的好奇心にあふれた活気あるツアーとなりました。温かい交流に支えられ、無事に完遂できたことに感謝します。

随行者：田中啓文（技術士）、石田奈緒（技術士）



米米惣門ツアー



山鹿灯籠民芸館



八千代座見学



八千代座見学

オプション行事

テクニカルツアーA

10/27(月)	集合時間 8:00						
		貸切バス		貸切バス		貸切バス	
	熊本桜町 BT	①阿蘇神社	②新阿蘇大橋	③熊本地震震災ミュージアム			
	8:10	9:40	10:20	10:50	11:30	11:40	12:00
		貸切バス		貸切バス		貸切バス	
道の駅「あそ望の郷・くぎの」(※自由昼食)	④阿蘇火山博物館	⑤熊本県防災センター	熊本桜町 BT				
12:20	13:20	13:50	14:50	16:10	17:10	17:30	

今回のツアーは、主に熊本地震からの復旧復興について研修しました。参加者は、北海道本部から九州本部まで男女合わせて39名の参加でした。①重要文化財の阿蘇神社では、地震による被害と倒壊した楼門を元の部材を利用した復元の取り組みについて説明を受けました。②国道325号に架かる阿蘇大橋の崩落、山腹崩壊の被害状況及び下流600mの位置に新設された新阿蘇大橋の地形の険しい場所での施工状況の説明を受けました。③熊本地震震災ミュージアムは、休館日でしたが、関係者のご厚意により敷地内には入りことができ、地割れ遺構、東海大学旧阿蘇校舎建物の損傷状況について地震被害の甚大な施設を見学できました。④阿蘇火山博物館では、参加者全員で五面マルチホールにおいて、火山の噴火や阿蘇の文化を知ることができました。⑤防災センターでは、熊本地震や令和2年7月豪雨など熊本県の過去の災害経験や教訓、災害発生のメカニズム、災害への取り組みについて学習しました。最後に、天気にも恵まれ、事故もなく時間通りに無事に終了できたことが一番良かったです。

随行者：亀田俊二（技術士）、沼地英二（技術士）



阿蘇神社



新阿蘇大橋



震災ミュージアム

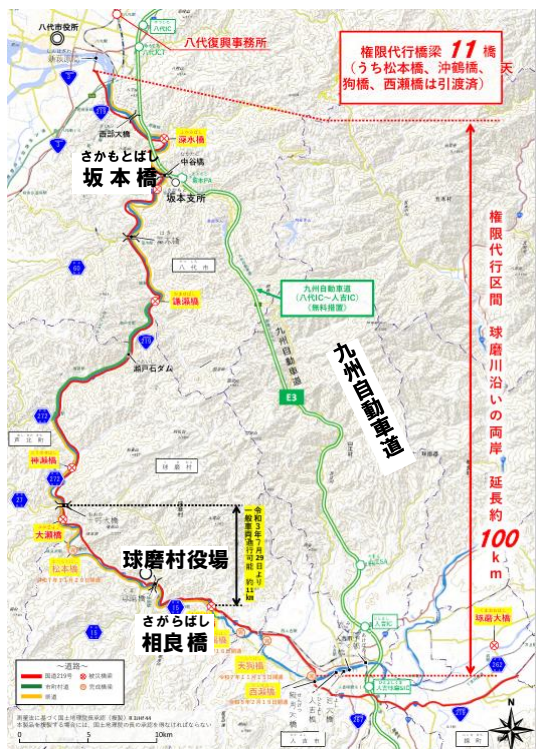


阿蘇火山博物館

オプション行事

テクニカルツアーB (1泊2日)		1日目		パターンB	
10/27(月)	集合時間 9:00				
	①熊本城ホール会議室(半導体講演会)	徒歩	貸切バス	貸切バス	貸切バス
	9:20	熊本桜町 BT	〇宮原サービスエリア(※自由昼食)		
	11:00	11:10	12:00	13:00	
	②球磨川災害復旧工事現場視察	貸切バス	③織月城見蔵「酒造見学」	貸切バス	ホテル【サン人吉】
	14:00	16:00	16:10	16:40	16:50
朝：— 昼：— 夕：〇					

ツアーBは、北海道本部、北陸本部、神奈川県支部、近畿本部、山梨県支部、中国本部、九州本部、その他から26名の参加者でした。①講演では、半導体の理解を深めるため、半導体やその役割、半導体がもたらす期待、熊本への未来について学習しました。②令和2年7月豪雨は梅雨前線が九州北部地方まで北上し、低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、球磨川流域では線状降水帯が形成され時間雨量30mmを超える激しい雨が約8時間にわたって連続して降り続いた。特に中流域に強い雨量が集中しており、基準地点上流域の流域平均雨量は人吉上流で12時間322mm(観測史上最大)、横石上流で12時間346mmを記録しました。球磨川沿いの道路については、令和2年7月豪雨により流出した橋梁10橋を含む国道219号や熊本県道等の約100km及び令和4年9月の台風14号により被災した1橋を対象に直轄権限代行により災害復興事業が進められ、今回の現地研修では、坂本橋、相良橋の技術的な工法、施工状況等について詳しい内容の説明を受けました。③織月城見蔵では、人吉・球磨の良質な米と水で仕込んだ球磨焼酎の製法などの技術的な工程を学習できました。参加者は各自好みの焼酎を和やかな雰囲気の中、試飲し購入されていました。参加者全員の交流会では、自己紹介等を交えて和やかな時間を過ごすことができました。



位置図



坂本橋



相良橋

テクニカルツアーB (1泊2日) 2日目 パターンB	
10/28(火)	集合時間 8:30 ホテル【サン人吉】 8:45 ①国宝「青井阿蘇神社」 8:50 ②国宝「通潤橋」 9:30 ③益城町復興まちづくりセンター 13:50 ④熊本県防災センター 15:10 熊本桜町 BT 17:00
	貸切バス ① ② ③ ④
	貸切バス ① ② ③ ④
	貸切バス ① ② ③ ④

①神社が国宝指定を受けたのは、本殿、幣殿（へいでん）、拝殿、楼門の建造物五棟と附（つきたり）として造営時の棟札一枚と改築の年代や内容が明記された銘札五枚でした。現在の社殿は、慶長15年（1610年）から同18年まで、4か年をかけて造営されたもので415年を迎えます。国宝の基準として、中世球磨地方に展開した独自性の強い意匠を継承しつつ、桃山期の華やかな意匠を機敏に摂取していること、完成度が高く、近世球磨地方における社寺造営の手本、彫刻技法や特異な拝殿形式と説明がありました。②国宝の本橋は、嘉永7年（1854年）に白糸台地に農業用水を送るために建設された日本最大級の石造りアーチ水路橋であり、橋を含む土木構造物として全国初の「国宝」に指定され、先人たちの知恵と熱意が作り上げた素晴らしい施設であると感銘を受けました。③熊本地震で被害を受けた益城町での様々な復興まちづくりが進められ、事業の概要及び進捗状況、また、現地で布田川断層帯を見学し、地表地震断層を確認できました。④過去の地震、風水害などの過去の災害の教訓を活かす施設として有意義な学習の場となりました。随行者：高山祐二郎（技術士）、寺田利博（技術士）、津山輝男（技術士）



国宝「青井阿蘇神社」



国宝「通潤橋」

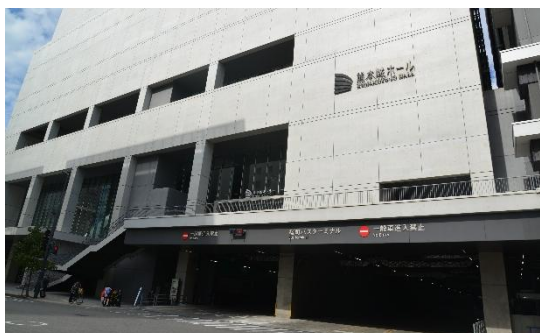


益城町復興まちづくりセンター



熊本県防災センター

会場点景



会場の熊本城ホール全景



熊本城ホールエントランス



エントランスホールのくまモン



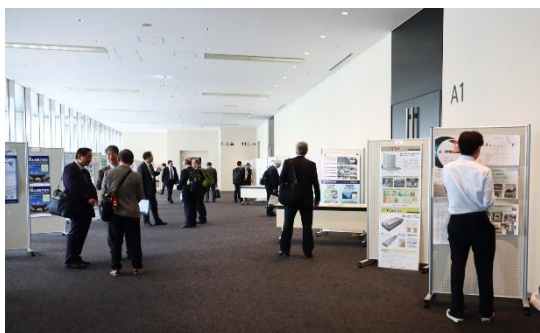
エントランスのバナー



受付エリア



受付のご案内



パネル展示エリア



パネル展示(次回、石川・北陸のご案内)

会場点景



分科会受付



分科会受付



大会式典・記念講演会場
(2F シビックホール)



大会式典・記念講演会場への入場



大会式典の様様



司会 小出 史



第一分科会報告



第二分科会報告

会場点景



第三分科会報告



第四分科会報告



次回、石川・北陸の紹介



次回の大会テーマ



持続可能性のためにパーティでは
プラカップに目印をつけて使用



受付でプラカップとシールを配布



九州本部一同でお客様のお見送り



日本技術士会 黒崎会長と

協賛

■協賛団体

大学技術士会連絡協議会	日本工営株式会社
(一社) 熊本県測量設計コンサルタンツ協会	(一社) 建設コンサルタンツ協会
株式会社 ARIAKE	九州建設コンサルタント株式会社
国土防災技術株式会社	五洋建設株式会社九州支店
株式会社コンサルハマダ	株式会社太平洋コンサルタント
日特建設株式会社九州支店	日本地研株式会社
株式会社羽田	株式会社水上市洋行
株式会社ロバストプラン	(一社) 熊本県コンクリート診断士会
(一社) 熊本県地質調査業務協会	旭測量設計株式会社
企恵測量設計株式会社	株式会社建設環境研究所
株式会社鴻池組九州支店	株式会社興和測量設計
株式会社コレクト・プラン	三和コンクリート工業株式会社
株式会社ジオエンジニアリング	株式会社親和コンサルタント
扶和ドローン株式会社	西田鉄工株式会社
株式会社ニコン・トリンプル	西鉄シー・イー・コンサルタント株式会社
株式会社西松建設	株式会社野田市兵衛商店
株式会社ヒライ・コンサルタント	株式会社システムサポート
西日本コンサルタント株式会社	ヒロセ補強土株式会社
株式会社水野建設コンサルタント	株式会社南日本技術コンサルタンツ
株式会社ヤマックス	朝日テクノ株式会社
株式会社アジア技術コンサルタンツ	インフラテック株式会社
扇精工コンサルタント株式会社	株式会社大林組九州支店
株式会社環境技術研究所	株式会社九州開発エンジニアリング
九州技術開発株式会社	株式会社熊本建設コンサルタント
株式会社三和測量設計社	株式会社三和地質コンサルタント
有限会社サンテル設計	昭和コンクリート工業株式会社
株式会社ジョーナンテクニカル	株式会社白浜測量設計
大福コンサルタント株式会社	東亜建設工業株式会社九州支店
西日本総合コンサルタント株式会社	富士ホテル
ホテルしらさぎ	STAR LIGHT violet 株式会社
株式会社クロスエンジニアリング	

■地域本部、地区、部会

公益社団法人 日本技術士会 北海道本部	公益社団法人 日本技術士会 東北本部
公益社団法人 日本技術士会 北陸本部	公益社団法人 日本技術士会 中部本部
公益社団法人 日本技術士会 近畿本部	公益社団法人 日本技術士会 中国本部
公益社団法人 日本技術士会 四国本部	公益社団法人 日本技術士会 衛生工学部会
公益社団法人 日本技術士会 上下水道部会	

実行委員会名簿

役 職	氏 名 (五十音順)
大会運営委員長	佐竹芳郎
副委員長	真鍋和義
副委員長	末松正典
副委員長	久保川孝俊
副委員長	中村 勲
監事	田沼和夫
大会実行委員長	清崎淳子
副委員長	寺師政廣
副委員長	高山祐二郎
副委員長	寺地 守
副委員長	藤島義久
大会開催総括小委員長	真鍋和義
省庁対応小委員長	末松正典
関連行事総括小委員長	久保川孝俊
来賓対応小委員長	中村 勲
委員	鈴木 淳
関連行事小委員長	永岩研一
委員	勇 秀忠、松井法彦
分科会総括小委員長	寺師政廣
委員	松永榮八郎
第1分科会小委員長	石本俊亮
委員	味澤泰夫、有村研一、池田圭一、伊藤恵美、稲垣浩通、梅田和久、樗木秀人、大村 学、緒方正隆、古賀忠直、小森直樹、高嶋登志男、高橋浩一、寺田利博、津山輝男、中田敦也、野尻正太、藤井裕三、松本義信、南嶋佳典、持田拓児、安武昭典
第2分科会小委員長	山田暁通
委員	一川雄一、大川 至、太田伸良、大森和範、上村昌己、倉成真一、首藤久宣、橋爪兼続、松鶴さとみ、松原恭博、吉田憲治
第3分科会小委員長	藤島義久
委員	岡田裕彰、河野公志、田沼和夫、寺師政廣、西川晋弘、原田正則、八百屋さやか、和田修二
第4分科会小委員長	西井康浩
委員	伊藤 陽、岩見裕子、城戸美智子、鈴木 淳、鶴田靖孝、平野 研、宮崎照美、牟田英昭、吉住高久

実行委員会名簿

役 職	氏 名 (五十音順)
大会式典小委員長	中園健一
委員	箴島秀利、金丸泰久、河野公志、倉成真一、堤 一将、西川晋弘、福岡 仁、吉住高久、
記念誌・広報小委員長	松田 敦
委員	棚町修一
現地運営小委員長	高山祐二郎
委員	石田奈緒、亀田俊二、関本郁夫、田中啓文、津山輝男、寺田利博、沼地英二、
財務小委員長	寺地 守
危機管理小委員長	持田拓児
委員	味澤泰夫、石本俊亮、稲垣浩通、大村 学、緒方正隆、亀田俊二、清崎淳子、桑畑俊郎、関本郁夫、高山祐二郎、田中啓文、寺田利博、寺地 守、津山輝男、平林昌洋、松田 敦、山田暁通
対外対応小委員長	寺田利博
委員	稲垣浩通
大会事務局	唐田典子

県支部

役 職	氏 名
熊本県 支部長	高山祐二郎
委員	勇 秀忠、石田奈緒、笠田雄司、亀田俊二、城戸美智子、桑畑俊郎、古賀泰樹、坂本省吾、関本郁夫、田中啓文、寺田利博、津山輝男、徳山雄一、西 英典、沼地英二、平林昌洋、堀 清隆
長崎県 支部長	山口昭光
委員	折田定良、安武昭典
鹿児島県 支部長	井内祥人
委員	樗木秀人、高畦 博、松鶴さとみ、丸田俊二
沖縄県 委員	大村 学
大分県 支部長	湯地三子弘
委員	岩見裕子、上村昌己、小拂裕之、佐藤光雄、高橋浩一、竹内一博、松原恭博
宮崎県 支部長	白浜隆寛
委員	神田稔弘
佐賀県 支部長	福岡 仁
委員	大川 至、小森直樹



国宝「通潤橋」



公益社団法人 日本技術士会 九州本部
第 51 回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）実行委員会
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 3 丁目 19 番 5 号
（博多石川ビル 6 階 D2 号室）
TEL 092-432-4441 FAX 092-432-4443
E-mail pekyushu@nifty.com